

親子で防災キャンプ



終了報告

平成27年9月26日～27日
神奈川県立愛川ふれあいの村

愛川ふれあいの村の主催事業、「親子で防災キャンプ」を開催し家族37名の方に参加していただきました。はじまりのつどいの後は、様々なじゃんけんをして緊張をほぐし、名札を木で作ります。避難所で名札は、迷子防止等の役割をします。子どもたちは、紙やすりで磨いた後に、「見てツルツルだよ」と教えてくれました。



昼食後は、防災ゲーム『クロスロード』に班で挑戦します。「避難所で持ち込んだ食糧を他の人に分けますか？」等の被災時に起こりうる状況を想定し、どうするかを「Yes」「No」で答えます。正解はないですが、いつか来るかもしれない選択…。大人の方からは「背に腹はかえられない」といった意見も。みんな真剣に考えます。



クロスロードの後は、避難所体験！あるものだけで生活空間をつくり、そこで一晩を過ごします。体験を始める前に色々な場面で役立つロープワークをみんなで練習します。大人も子どもも、難しい表情をしながらも一生懸命に取り組みました。習得したロープワークと限られた材料を元に生活空間を班で協力して作る家族や、テープを使わずにダンボールをPPロープで縫い合わせて作る方も居ました。



夕食は、アルファ米と豚汁で炊き出し体験です。災害時、水は貴重になるのでお皿を汚さないようにラップをしめます。いざアルファ米を食べてみると「おいしい!」「普通のご飯と変わらない!」といった声も。



その後は、お風呂に入り、フリータイム♪災害時に役立つクラフトの展示や実際に作成をする体験をしました。新聞紙を折りたたみ簡易的なスリッパを作るブースでは、ペットボトルキャップを割れたガラスに見立て、裸足とスリッパでどのくらい痛さが違うかを体感してもらいます。「ちょっと痛くなくなったよ」と笑顔で教えてくれる子どもたち。実際に割れたガラスを裸足で踏むことを考えるとぞっとしますね。



いよいよ眠る時間。不安そうな表情の中、床につきます。一晩過ごしたみなさんの表情は、少し頼もしくなっていたように感じます。「よく眠れた!」「いびきすごかった!」とさまざまな声が聞こえてきました。



2日目は、朝食を食べて片づけタイム!自分たちで作った生活空間を他の家族と協力して手際よく解体していきます。ダンボールも再利用できるように貼ったテープを剥がします。時間をかけて作ったものも解体するのは一瞬でした。片付けたあとは、みんなでお掃除!仕事を分担し協力して掃除をする姿がとても印象的でした。



サバイバルクッキングでは、油汚れなどで鍋を汚さないように、ジップロックやハイゼックスという災害用炊飯袋を使ってご飯を作ります。メニューは、カレーライスと乾物で作る和え物。カレーは、袋に全ての材料を入れてよく混ぜて、ご飯は袋にお米と水を入れて鍋に投入!袋に入れるだけだから、包丁は必要ありません♪ご飯が出来たら、班ごとに「いただきます!」。「このカレーおいしい!」と声があちこちから上がりました。



今回の防災キャンプでは、実際に災害に遭遇した時のことを想定しています。水を大切にすること、使えるものはあるものだけ、普段使っているものがない状況でどのように対処すればいいかの心構えが作れたのではないのでしょうか。そして、生活空間づくりやサバイバルクッキング等で、家族同士のつながりが災害時に生きるということもみなさん感じていたようです。災害時だけでなく、普段から災害時に使えるものを探したり地域ぐるみのつながりを意識したりしてみてもいいのではないでしょうか。

文責：鷲山（わっしゅー）